

日本パーソナリティ心理学会第 92 回常任理事会

日時：2009 年 6 月 20 日（土）15：00～17：45

場所：東洋大学

出席：杉山、藤田、北村、荒川、浮谷、渡邊、首藤、中村

事務局：加藤

欠席：小塩、菅原、松田、佐藤、川野、有光

大会主催校：欠席

報告事項

1 各種委員会報告

(1) 機関誌編集委員会（渡邊委員長）

①編集委員会の開催状況

開催ない

②第 17 巻 3 号の印刷状況について

原著 4 本，資料 2 本，ショートレポート 4 本を掲載する。6 月中の発行予定である。

掲載番号	審査番号	種別	題目	筆頭者	受稿	受理
17-3-1	A-151E	特集原著	「自己の二重性の意識化」としての自我体験	清水亜紀子	2007.5.1	2008.12.8
17-3-2	A-174E	原著	潜在的・歴史的自尊感情と仮想的有能感の関連	小塩真司	2008.1.7	2008.11.26
17-3-3	A-180E	原著	抑うつと私的自己意識の2側面に関する縦断的研究	高野慶輔	2008.2.12	2008.12.8
17-3-4	A-162E	原著	学校組織特性とソーシャルサポートが教師バーンアウトに及ぼす影響	貝川直子	2007.9.4	2009.1.4
17-3-5	B-40E	資料	対人恐怖傾向の要因としての自己疑的脆弱性、自己不一致、自尊感情の関連性	上地雄一郎	2008.4.16	2008.11.10
17-3-6	B-35E	資料	対人的な文脈における自己の多様性と精神的健康の関連	上出寛子	2007.7.12	2009.1.4
17-3-7	S-128E	ショートレポート	高校生の友人関係における同意と主張性との関連	渡部麻美	2008.5.12	2008.10.2
17-3-8	S-128E	ショートレポート	児童用多次元共感性尺度の信頼性・妥当性の検討	長谷川真里	2008.4.8	2008.10.10
17-3-9	S-125E	ショートレポート	共感的意識と心的距離	藤村幸恵	2008.2.4	2008.10.23
17-3-10	S-132E	ショートレポート	社会的スキルの欠如がストレス反応に及ぼす影響	岡村寿代	2008.8.11	2008.12.9

③第 18 巻 1 号の印刷状況について

原著 2 本，資料 3 本，ショートレポート 5 本) を掲載する。現在著者校正中、7 月中の発行予定。

掲載番号	審査番号	種別	題目	筆頭者	受稿	受理
18-1-1	A-188E	原著	青年期における自己憐憫の構造~自己憐憫尺度作成の試み	佐藤純	2008.4.8	2009.1.28
18-1-2	A-195E	原著	青年期における不快情動との直面を促進する要因に関する検討	福森崇貴	2008.8.11	2009.4.15
18-1-3	B-43E	資料	抑うつ的反すうに関するポジティブな信念の確信度と抑うつ的 反すう傾向との関連性	長谷川晃	2008.7.15	2009.1.13
18-1-4	B-A-180E	資料	パーソナリティ、日常的出来事と主観的幸福感との関連	門田昌子	2008.5.1	2009.1.16
18-1-5	B-A-178	資料	自我体験とパーソナリティ特性・孤独感との関係-「私はなぜ私 なのか」と問う取り組み方による違い	天谷祐子	2008.2.7	2009.3.13
18-1-6	S-138E	ショートレポート	2種類の自己愛と自尊心、対人不安との関係	藤合萌子	2008.10.3	2009.1.16
18-1-7	S-127E	ショートレポート	対人場面におけるあいまいさへの非寛容と情報処理スタイルおよ び精神的健康の関連性について	友野隆成	2008.4.8	2009.1.17
18-1-8	S-142E	ショートレポート	ネガティブな反すうと自己評価的感情および自己志向的完全主 義との関連の検討	齋藤路子	2008.11.27	2009.3.13
18-1-9	S-A-181E	ショートレポート	内的作業モデルの情報処理機能についての実験的検討	島義宏	2008.2.12	2009.3.16
18-1-10	S-134E	ショートレポート	大学生の持つ抑うつ傾向と攻撃性との関連	上野真弓	2008.9.8	2009.3.27

④第18巻2号の編集状況について

6月16日現在の採択済論文は以下の4本である。ほかに修正採択修正中が5本ある。11月から12月の発行を予定している

審査番号	種別	題目	筆頭者	受稿	受理
A-185E	原著	対人ストレスユーモアコーピング尺度(HCISS)の作成と信 頼性、妥当性の検討	樫本知子	2008.4.3	2009.4.15
B-A-192E	資料	わりきり志向と精神的健康、反応スタイルとの関係	浅野憲一	2008.6.23	2009.5.13
S-141E	ショートレポート	日本語版オックスフォード統合失調型パーソナリティ尺度の 信頼性と妥当性	上野真弓	2008.10.22	2009.6.10
B-46E	資料	自尊心の高低・不安定性の2側面と達成動機との関連	脇本 竜太郎	2008.10.22	2009.6.16

⑤投稿状況および編集状況について

現在審査中の論文は41本、審査依頼中の論文が6本である。

前回理事会以降に不採択は2本、取り下げ3本である。

⑥その他

1) 第18巻第3号について

平成22年3月中に発行するために、12月中の入稿を予定している。

2) 校正方法の見直しについて

3) 日本学術振興会より、出版助成金として90万円補助金の決定通知を受けた。

(2) 経常的研究交流委員会（北村担当常任理事）

①シンポジウム企画について

1) 大会以外のシンポジウム

テーマ：「パーソナリティを多面的にとらえる」というテーマで実施を予定している。

日程：7月25日（土） 14時からを予定

場所：東北大学

話題提供者：澤田匡人、鈴木公啓、荒木剛、指定討論者：堀毛一也

企画担当：森本幸子

2) シンポジウム企画

テーマ：認知と感情、そしてパーソナリティ

企画担当者：青林唯

(3) 広報委員会（荒川委員長）

1) ホームページの更新をした。

2) 「パーソナリティ心理学と社会」の回答について

常任理事会名で、広報委員会から依頼する。

3) 大会発表賞のホームページについて

過去の優秀賞について掲載する。

4) ヤングサイコロジストプログラム

担当者は荒川委員長であるが、運営委員を決定し、運営は運営委員に任せる。

(4) 国際交流委員会（首藤担当常任理事）

報告なし

(5) 大会活性化委員会

大会発表賞の正式名称が下記のように決定した。

日本語名「日本パーソナリティ心理学会第〇回大会優秀大会発表賞」

英語名「JSPP 20〇〇 Best Presentation Award」

(6) 選挙管理委員会（首藤委員長）

被選挙権者 714 名、選挙権 721 名であることが報告された。審議は、本常任理事会の審議事項で行われた（審議事項参照）。

(7) 名簿電子化小委員会（北村委員長）

現状が報告された。

(8) 機関誌電子版高機能化と紙媒体廃止検討小委員会（中村委員）

機関誌電子化のメリットとデメリットについて、他の機関誌について検討し、報告された。

2 日本心理学諸学会連合（杉山理事長）

(1) わが国における大学心理学教育の現状把握について

あるべき大学のカリキュラムについて検討し、その内容について、いくつかの大学の例に説明があった。

(2) 三団体による資格問題について

日本心理学諸学会連合は、国家資格の早期実現を図るべく、二資格一法案を起点ベースとして、それを統合する形の新しい方向性を模索するために、心理系、医療系各団体との折衝を続けることが報告された。

すなわち、二資格一法案がデトロックになり、一資格一法案を模索する方向に向かっていることが、説明された。

(3) 役員選挙について

理事長は市川伸一（日本教育心理学会）、副理事長は野島一彦（日本人間性心理学会）、織田正美（日本健康心理学会）

3 第18回大会について

報告なし。

4 事務局（加藤事務局長）

(1) 会勢報告

賛助会員 1 件、名誉会員 6 名、一般会員：537 名、院生会員 254 名、学生会員 3 名
計 801 名

(2) 宛先不明者

現在、宛先不明者は 1 名である。

5 その他

なし

審議事項

1 2008 年度決算・2009 年度予算について（藤田担当常任理事）

1) 2008 年度決算案

2) 2009 年度予算案

科学研究費の採択決定により、積極的な会員サービスを図るため、各種委員会（小委員会を含む）で特別な活動をするための、費目を設けることにした。

2 名簿（選挙人・被選挙人）について（北村委員長）

名簿がHP上で見られる条件として、印刷した名簿廃止を提案した。HP上での名簿がどのような扱いとなっているか国際文献と協議し、継続審議とする。

3 選挙管理について（首藤委員長）

被選挙権者 714 名、選挙権 721 名であり、承認された。

4 第 91 回常任理事会議事録について（加藤事務局長）

承認された。

5 新入会員について（加藤事務局長）

(2) 新入会会員希望者

151120 から 151126 までの 6 名が承認された。

(3) 退会希望者

6 名の退会者が承認された。

6 その他

次回常任理事会は 8 月 8 日（土）13：00 より、東洋大学で行われることを確認した。

次々回は 9 月 19 日（土）13：00 より、東洋大学で行われることが決定した。